

## 2015 年度 検索技術者検定「合格者を祝う会」実施報告と合格者の声

2015 年度検索技術者検定の合格者をお招きし、春の恒例行事「合格者を祝う会」を以下の通り、開催いたしました。

### 【東京会場】

日 時：2016 年 3 月 4 日（金）18:30～20:30

場 所：文京シビックセンター

参加者：1 級 5 名 2 級 4 名 2, 3 級 4 名 3 級 10 名 合計 23 名

### 【大阪会場】

日 時：2016 年 3 月 5 日（土）14:00～16:00

場 所：大阪科学技術センタービル

参加者：1 級 2 名 2 級 2 名 2, 3 級 1 名 3 級 3 名 合計 8 名

時実会長挨拶の後、先輩サーチャーのお話として、東京会場ではインフォストラジャー特許事務所の尼崎浩史氏から、大阪会場では、東洋紡株式会社の上田幸子氏から、ご講演をいただきました。

講演終了後、ほとんどの皆様にご参加いただき、お茶とケーキの懇親会を行い、参加者間の情報交換を行いました。



当日、ご参加いただいた 6 名の方に、「2015 年度検索技術者検定に合格して」と題して、原稿をお願いしましたので、以下に掲載いたします。

## 2015 年度「検索技術者検定」に合格して

### ◆ 1 級合格者



正角 彰朗さん

#### ・検定試験受験の動機

私は、電気分野、化学分野の開発に従事後、知財の世界に入り 10 年弱になります。ここ数年は、特許情報を用いた特許権利化戦略に資する分析を行ってきました。最近、事業化、開発戦略に資する分析へと分析範囲が広がってきました。前記分析には、特許情報だけではなく、論文、プレスリリース、市場情報等の情報が必要です。当初は、Web 検索、JDreamIII 等で対応してきましたが、「その検索で全部のデータが網羅できていますか?」、「得られた内容は正確ですか」、という観点から考えると、必要十分ということではできません。特許検索の世界では、データベースが十分整備されているので、余り気にしなくてよかった観点で

す。改めて、非特許文献の検索について、どこをどう調べたらいいのか、どこまで調べられるのか（何がわかって何がわからないのか）、ということについて、体系的に学びたいという思いが出てきました。この「体系的に学びたい」という欲求に対して、検索技術者検定の試験受験（を通じた学習）は、役に立ったと思います。

もうひとつの動機としては、サーチャーとしての技能を客観的に示すことができる、と言ったことでしょうか。

#### ・試験受験にあたって

今回私は 1 級を受験しました。前半では「情報検索の基礎知識」記載の知識は必要だと思います。（それだけでは足りませんが。）後半では、「専門家であるあなたの姿は?」「マネージャーであるあなたの姿は?」が問われます。既定の文字数になるように、過去問での設定内容で書いてみることを薦めます。1500 文字、2000 文字は思いのほか多いです。なお、この内容は 2 次試験での発表内容になりますので、メモが必要です。2 次試験では、「サーチャーとしての生きざま」についてのプレゼンを行います（私のときはそうでした）。パワーポイント資料での発表と質疑応答があります。数分の発表時間なので、枚数は絞って、とにかく

分かりやすく、がポイントです。質疑応答は、あなたは組織をどう運営したいですか、に答えられるようになっていればokです。

・最後に

本試験受験を通じての学習は、新しい観点を得ることができ、私にとってとても有意義でした。また、月並みではありますが、試験の合格がゴールではなくここがスタートだと思います。皆さんも受験されてみてはいかがでしょうか？

## ◆ 1 級合格者



佐藤 匡さん  
株式会社 紀伊國屋書店  
関西ライブラリーサービス部

私は現在、大学の総合図書館にてレファレンスを担当しております。スキルも経験も甚だ未熟ですが、今回試しに駄目元で受験しましたところ、半ば勢いで合格した次第です。従って、私の体験がどの程度参考になるかわかりませんが、受験対策や感じたことを記したいと思います。

筆記試験前半の対策は、『情報検索の知識と技術 応用編』の理解と過去問が中心です。テキストで不足する部分は、例えばカレントアウェアネス・ポータルなどのWebサイトや当会誌のバックナンバーから関連記事を拾い読みするなどして補足しました。本番は時間との勝負ですから、1つの問題に時間をかけすぎないように注意が必要ですが、過去問を解くにあたっては、逆に、1つの問題を可能な限り丁寧にやることをお勧めします。というのも、1つの問題に多様なアプローチがある場合が多く、丁寧にやることで、見落としていたツールや未知の情報源を発見したり、冊子体の参考図書の有用性にあらためて気づかされたりするからです。1つの問題からでも、実に多くのことを学べます。

筆記試験後半の対策も過去問に尽きます。問題には、業務に関する自身の考えや、これまでの経験を踏まえて今後どうありたいかを問うものなどがありますが、いずれにせよ、自らのマインドが問われます。ですから、過去問を通じて自分の考えを整理し、実際に一字一句書かずとも、論述のアウトラインを組み立てる練習をしておきました。本番では、前半以上に時間との戦いになりましたが、とにかく時間をフルに使い、最後まで書き切ることが大事です。

面接試験は、筆記後半の論述内容についてのプレゼンと質疑応答からはじまり、筆記前半で出来の悪かった問題について突っ込まれ、しどろもどろになりましたが、ここでも問われるのは、主にマインドです。プレゼンは論述内容を簡潔にまとめたPowerPointを作成し、時間内に収まるよう練習しておきました。また、筆記前半で十分に解答できなかった問題を再考し、当日きちんと解答できるよう準備

しておく必要があります。あとは、せっかくここまで来たら1回で決める、という勢いも大事かと思います。

最後になりましたが、今回私が合格できましたのも、職場の上司や同僚をはじめ、日々相談に来られる利用者の方々のおかげです。この場を借りて深く感謝申し上げます。これからもどうぞよろしくお願い致します。

## ◆ 2 級合格者



加藤 雅子さん  
株式会社パトロ・インフォメーション

私は、2015年夏より、特許調査・特許翻訳の会社で検索技術者として勤務しています。この度、検索技術者検定2級に合格して感想を書く機会を頂きましたので、受験のきっかけと試験勉強についてご紹介させて頂きたいと思います。

### <受験のきっかけ>

10年程前にも検索技術者として業務に携わったことがありましたが、その後転職等で他業種の仕事をした後、昨年8月に検索技術の仕事に戻ってきました。その際にまず驚いたことは、検索技術者を取り巻く環境の変化でした。以前に使用していたデータベースがなくなり聞き慣れないデータベースが増えたばかりか、グーグル等サーチエンジンの目覚ましい進歩により検索技術はもはや特殊な技能ではなくなった印象を受けました。更には、人工知能を使用して情報を探し出す技術が開発されているというニュースも聞こえてきました。このような環境で検索技術者として何を求められているのだろうか？そして、自分はどこから始めたらよいのだろうか？そのようなことを考えていたとき、上司と先輩から検索技術者検定2級の受験を勧められました。実際にテキスト「情報検索の知識と技術 応用編」を購入して読み進めると、以前知っていた知識が歴史として記され、各データベースの特徴、検索依頼者との面談の仕方等が、10年間の空白を埋めるかのように丁寧に説明されていて、疑問解決の糸口が示されていました。検索技術者検定2級を薦めて下さった上司と先輩に感謝しております。

### <試験勉強>

試験勉強に関しては、通勤時間や休日にテキストを繰り返し読んで、その合間に過去に出題された問題（情報科学技術協会のウェブサイトから入手）を解きました。試験では、利用したことのないデータベースの知識も問われるかもしれませんが、2級で出題される問題は、殆どがテキストにある知識で対応できる範囲ですので、テキストの説明

を確実に理解、習得するように努めると良いと思います。試験勉強を通じて得られる知識は、私のように暫く検索技術の業務を離れていた人やこれから検索技術の業務に携わろうとする人は勿論、既に活躍中の人にもブラッシュアップの意味で役立つと思います。そして、これまでの勉強や経験を資格の形にすることは次のキャリアアップにつながりますので、未受験の方はぜひご検討ください。

2級に合格して、私の検索技術者としてのキャリアもようやく再スタートしたように思えます。少しずつそして確実に経験を積んで、お客様が困った時にこそお役に立てるように、日々精進して参りたいと存じます。

### ◆ 2級合格者



山本 俊生さん  
宇部興産株式会社 知的財産部

私は現在、化学メーカーの知的財産部員として、業務に従事しています。業務内容は、いわゆる技術担当であり、基本的には出願・中間処理といった権利化業務が主となっています。しかしながら、出願前調査、特許無効化調査といった調査業務は、情報検索担当でなくても必要であります。さらには、自身の業務として、将来的に情報検索業務を主としたいという希望があり、検索技術者検定を受検しました。

また、社内での目標管理制度として、『検索技術者検定2級の取得』を設定してしまったため、受けざるを得なくなったという側面もあります。

そのような短期的な面・長期的な面を踏まえて社内的な地位の拡充を目的に検索技術者検定を受検しました。

2級の試験は、前半が選択式の問題、後半が記述式の問題となっています。

試験対策として、サーチャー講座21を受講しました。試験後半の記述問題に関して、自身の業務と関係が深い特許検索に関する事および情報解析に関するような内容に関して、回答への考え方について、サーチャー講座21での説明を参考にしました。記述問題に関しては、9問中2問選択なので、自身の業務と接点のある設問についてのみ勉強しました。前半の選択式問題に関しては、サーチャー講座21での解説を参考にしながら、過去問を解くことで内容を暗記しました。化学系の特許検索に関する事、コンピュータ・インターネットに関する事等はもともと知識があったのでそんなに苦労しなかったのですが、図書館分類等はまったく知識がなかったので苦労しました。

今後の目標として、2級の資格を得たことで業務に還元できるようにしたいと思います。さらには、1級に関しても挑戦したいと思います。

### ◆ 3級合格者



黒澤 愛さん

私は現在、大学図書館において、閲覧業務に従事しております。それまでは、公共図書館で勤務しておりました。当然ながら、大学という教育機関では、司書として利用者から求められているニーズが、より専門的であり、自身の知識レベルを向上させなければと思っておりました。

私は、もともと、本好きが講じてこの世界に入ったため、正直パソコンやリサーチ力には自信がありませんでした。しかし、今の時代は、自分の求めている情報を百科事典で調べるよりも、データベースで検索する方がはるかに効率が良く、情報量も多いです。しかし、その分、情報が本当に正確なものなのか判断する力が必要となります。そのため、データベースにおける知識についてより深く知りたいたいと思っておりました。

図書館業務のうちの一つであるレファレンスでは、カウンターで得られる利用者の情報はほんのわずかと言われております。その少しの情報から、真のニーズを汲み取り、把握しなければ、利用者の満足のいく回答が出来ないと思っております。

そんな中、昨年夏に行われた明治大学での司書講習を受講し、青柳先生からこちらの試験を薦めて頂きました。自身のスキルアップは勿論のこと、他者と差別化を図るために、受験に至りました。

私の勉強方法は、3つです。

①先生の講義を受ける。

明治大学で行われた合格対策講義を受講し、この講義で、過去の出題傾向を教えてくださいました。それにより、重点的にやらなければならない分野を確認することができました。

②ひたすら過去問を解く

合格対策講義では、過去問が配布されましたので、これらをひたすら解きました。間違えた問題はポストイットを貼って、再度解いて答えられたら剥がしていくという方法で問題を繰り返し解きました。

③テキストを黙読する。

日常生活にテキストの黙読を取り入れ、ちょっとした隙間時間に眺めるようにしました。通勤時間や就寝前など、勉強する気がないときでも、この方法は毎日行いました。苦手な分野の慣れない用語も何度も繰り返し読むことに

よって、耐性がつくようになったと思います。

最後に、私の勉強期間は約1カ月ほどでした。あくまでも資格取得は通過点です。詰め込んだ知識をこれから業務にどう生かすかがこれからやるべきことだと思っています。

### ◆ 3級合格者



大谷 安希さん

#### 1. 取得のきっかけ

勉強し始めたきっかけは学生時代に司書の勉強等をしているときにレポート作成が必要で、その時から情報検索の重要性は僅かながら感じはじめました。

しかし、情報検索について具体的にどのように勉強したらいいのかが分からず、インターネットで検索しているところこの検定が出てきたので受験することとなりました。

#### 2. 勉強の期間と方法

検定試験の勉強を始めたのが10月の下旬でしたので、勉強できた期間としては実質1か月弱程度だったように思います。

勉強方法としては、試験日までそれほど日がなかったのもあり、協会出版の参考書を買う前に、まずはインターネットから過去問題を見て、どの級を受験するかを検討してから、受験できそうな級の参考書を購入して勉強していました。

勉強の仕方は、参考書と筆記用具を常に持ち歩き、移動時間や仕事の休憩時間を利用して、いつでも目を通していました。

とにかく、少しでも空き時間があれば参考書を見る癖をつけ、繰り返し復習することに重きを置きながら、重要単語や文章などは、口に出して聞いて覚えるなど自分にあった方法を模索しながらの勉強でした。

参考書などを見ていると、学生時代に学んだ図書館司書の知識もありましたので、勉強は比較的スムーズだったのかもしれませんが、それでも検定内容すべてを学んでいるわけではないので大変だったことを覚えています。

#### 3. 取得しての感想とこれから

今回この検定を受験してよかったと感じています。

仕事で情報検索に関する仕事には携わっていませんが、この検定の勉強をしていくにしたがって「情報が多くある昨今において、仕事以外でも役に立っていくスキルである」と強く感じました。

また、検定を受験することにより、独学の大変さを実感することが出来たとともに、自分自身の知的好奇心に気付くなど、「検定合格」以外のものも得ることが出来た機会と

なりました。

検定合格発表後に行われた合格者のお祝い会においても、様々な方とお会いすることができ、現在、情報検索のプロとして実務に携わっておられる方からお話しをお聞きすることができ、上級の検定に合格された先輩方とお会いできたことにより、現在は2級受験への勉強は出来ておりませんが、将来は必ず上級を目指そうと考えております。

最後となりましたが、合格お祝い会を主催してくださった協会の方々に感謝とともに厚く御礼申し上げます。